

# ボール紙組み立て△や☆に



お年寄りの認知症予防に役立てようと、豊橋市西幸町の病院「みゆきクリニック」で、ボール紙のおもちゃを使ったユニークなトレーニングが始まった。ボール紙をパズルのように組み立てるおもちゃで、その名も「脳トレ仕切り益」。鈴木大次郎院長(60)は「両手を使った細かい作業が脳の活性化につながるのでは」と期待している。

(池内琢)

## 「仕切り益」

# 認知症予防へ 脳トレおもちゃ

病院の一室に集まったを組み合わせ、三角形や七十一八十代の女性患者 星形にかたどる。「やっ 年寄りたちの元気な声から十人が、鈴木院長の指 てみると案外難しいね 響いた。示で、ボール紙の組み立 え。頭の体操になる」と 同病院では以前から、てを始めた。青や赤、黄 同市西幸町の無職長台ス 認知症予防のため、高齢色の板のようなボール紙 ガさん(65)。およそ一時の通院患者らを対象に週

認知症予防にと「脳トレ仕切り益」の組み立てを楽しむお年寄り＝豊橋市西幸町のみゆきクリニックで

一回、算数の計算問題や漢字書き取りなどを続けてきた。脳トレ仕切り益は、それに加え、昨年末に導入した。脳トレ仕切り益を作ったのは、同市問屋町の梱包用品製作会社「福益工業所」の白井伸幸社長(47)。ボール紙は自動車部品梱包用で、従来、市内の障害者通所授産所「ワークショップ杜」で梱包用品を作っていた。しかし、一昨年の秋の世界

## 豊橋の病院で取り組み「脳の活性化期待」

「細かい手作業はもちろん、こうして集まって話をするのも認知症防止に役立つはず」と鈴木院長。黙々と取り組む計算や漢字の書き取りに加え、会話が弾むトレーニングの意義を強調する。白井さんは「子ども向けのつもりだったので、お年寄りにも役立てるなら本当にうれしい。授産所の利益アップにつながる」と話している。「脳トレ仕切り益」の問い合わせは、ワークショップ杜＝電0532(23)4020へ。



おたふしやくし

(初めて落語をテレビで見ました)  
子なにこの人、一人でし  
やべつての  
しるまき・なな(9歳) = 子からこいこいちゃんこい  
こいこい!  
い  
子こいせいのうたうしよ  
稲沢市、母・河野聡子  
みずの・なのは(2歳) = ちんちんおんがえり  
私(何かの賞だと思ってるのね...)  
一川の・きよと(9歳) =